

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2070201427		
法人名	有限会社 アップルケア		
事業所名	グループホーム りんごの樹		
所在地	長野県松本市石芝 3-9-5		
自己評価作成日	平成21年9月10日	評価結果市町村受理日	平成22年1月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

目指すのは、ごく普通の安心できる生活です
 温かい家庭的な安らぎがある暮らしの中で、利用される方の「自分らしさ」を大切に、真心を込めて見守ります

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは主道路より入り新興住宅地に囲まれた中に立地して、ホーム庭先には菜園と沢山のりんごの樹が季節柄枝をたわわに真っ赤な実をつけ、季節感と生活感が味わえる環境の中に設置されている。ホーム運営者は高齢化に伴い急増しつつある認知症ケアの必要性を認識し、サービスの質を保障するシステム整備に取り組まれている。「入居者が地域の中で、意思と自由を尊重されながら生活することを支える」ことを示した事業所の理念は、職員に周知され、具体的ケアの取り組みのよりどころとなっている。重度化の対応に関わる指針も作成されており、看護師2名を配置し、専門職の指導を得て職員の研修体制の充実とケアサービスの質の向上が図られている。管理者・職員・入居者との人間関係が構築されており、家庭的な温もりと献身的な支援により入居者が大変明るく穏やかに安心した日々を過ごされており、ご家族の大きな安心と安全に繋がっている。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2070201427&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市両島7-1 オフィス松本堂2A		
訪問調査日	平成21年10月30日		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(きいろ)				
項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
ユニット名(みどり)					
項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有していると思うが、現場はなかなかその通りには進まない	地域密着型サービスの意義を踏まえた大枠の理念が掲げられると共に、更に具体化した理念を明示されている。ホーム事務室に掲示された理念を職員が出勤時に唱和、また毎月のミーティング時において話し合い、理念の共有を図りサービスに当たられている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の管理者が古くから地元に住んでおり隣組の関係で交流が来ている	地域の一員として町内会に加入しており、地域との連携を図られている。なお地域の行事(夏祭り、町内小学生による盆行事「あおやまさま」、文化祭等)や各種団体によるボランティアの方々の訪問による交流が図られている。時には近隣の方よりのお野菜などのおすそ分けを頂くこともあることを伺った。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の学生(中学・高校)の体験学習や学生ボランティアの受入に協力している		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議 = ホーム会議、として色々な取り組みや反省会 地域の方との意見交換など頑張っている	運営推進会議では議題(認知症ケアについて、介護と感染予防等)を設けて、参加者より要望を伺うとともに、専門性を有した方からの指導を得ながら勉強会を行うなど、双方向的な会議を持たれるよう努められている。	会議メンバー構成員には入居者やご家族も入っておりますが、現況では参加が見られない。今後入居者やご家族に呼び掛け、思いや要望の表出場面になるよう期待する。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者との連絡は大切にしているが、異動でせっかく慣れた方がいなくなるのは困る	ホーム運営者は、高齢化に伴い急増しつつある認知症ケアの必要性を認識されており、現況のホームを活用してのデイサービスの創設に向け、市担当者との取り組みのための話し合いが行われている。	地域密着型サービスとしてのグループホームへのニーズが多様化する中、現場や入居者の問題解決のためには、介護保険の保険者である市の理解と支援が必要である。運営推進会議や様々な機会を通じて、市の担当者の実情を知っていただき、情報を共有されることが望まれる。

外部評価結果(グループホームりんごの樹)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしない 但し、見守り者の状況によっては無断離設を想定して玄関施錠もありえる	ホーム利用に当たり契約書に身体拘束をしないケアについて明記されており、説明を受けている。なお職員は身体拘束により入居者が受ける身体的・精神的弊害について研修等で学び理解しており、拘束のないケアに取組まれている。	今後更に入居者一人ひとりの心身の状態を見極め、身体拘束を必要としない状態を作る方向を考慮されたケアの確立に期待する。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	注意を払い、防止に努めている		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	出来ていない		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に詳しく説明をしている 又、家族の署名も頂いている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部者へ表せる機会・・・？ 家族からの意見は反映している	入居者については日常の対話の中より、思いや要望の表出に努められると共に、ご家族が訪問される機会には入居者の状況や暮らしぶりを伝え、ご家族よりの意見や希望を伺い、職員全員で話し合い、運営に反映されている。気軽に意見表出が出来るよう意見箱も設置されている。	今後更に利用者・ご家族の運営会議出席やりんご便りを活用して、入居者の状態や暮らしぶりを伝え、ご家族の関心や意見を引き出す取り組みに期待する。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営推進会議＝ホーム会議、として色々な取り組みや反省会での意見を運営に生かしている	ホームミーティング時に職員の意見や要望を聞く機会を設け話し合い運営に反映されている。(有給休暇の消化の件・休憩時間の取得・ゴミ処理問題等)	今後更に職員の意見を反映し、ホームの質の向上に繋がる取り組みに期待する。

外部評価結果(グループホームりんごの樹)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>整備に努めたいが、現在の介護報酬では限界がある</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>整備に努めたいが、現在の介護報酬では限界がある</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>仕事を終えた後や休みの日に、機会を設けて自主的に参加して頂いている 出来れば仕事時間として勉強会等に参加させたい</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>家族や本人から十分にお話を伺って、その情報を共有しながら慎重に進めている</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居時に管理者とホーム長がスタッフの代表として時間をかけてお話をさせて頂く</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居時に管理者とホーム長がスタッフの代表として時間をかけてお話をさせて頂き、判断をしている</p>		

外部評価結果(グループホームりんごの樹)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームの理念を理解して頂いている		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームの理念を理解して頂いている		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	こちらから出向くことは難しい	入居者の友人や昔入居者にお世話になられた方(若いころお茶やお食事の接待を受けられた方)が訪問して下さり、交流が図られている。なお馴染みの美容院・スーパーへの買い物・近隣の花見場所等に出かけ、楽しむことが出来るよう支援されている。	今後も入居者をとりまく方々との関係が途切れることのないよう、入居者に代わって電話や手紙などにより継続できる支援に期待する。
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来ている		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	努めている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者を決めて定期的にカンファレンスを行いその人らしい暮らしを支えている	職員は入居者一人ひとりの生活暦を把握して、日々寄り添いのケアの中で得られた気付きをノートに書き留め、ここから得られた入居者の思い・意向・希望を基に職員間で話し合わせ、対応に活かされている。	今後更に気付きノートの活用により、よりきめ細かい対応に期待する。

外部評価結果(グループホームりんごの樹)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族の方々より情報を頂き、サービスの向上に努めている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録に残しスタッフがその情報を共有出来るようにしている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者を決めて定期的にカンファレンスを行いその人らしい暮らしを支えている	一人の入居者を3人の職員で見るという担当制により、入居者の状態や生活歴、入居者やご家族の意向を把握して全職員でカンファレンスを行い、入居者主体の具体的な介護計画が作成されている。	入居者の高齢化に伴い、機能低下が見られる中で、入居者一人ひとりの意向にそったきめ細かい対応を視点に置いた時に、何ら状態に変化が見られなくても3ヶ月に1回程度の見直しが見られる。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に残しスタッフがその情報を共有出来るようにしている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	小規模だから出来るサービスだと思い、重要課題の一つだと捉えています		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			

外部評価結果(グループホームりんごの樹)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援できていると思う	入居者やご家族の希望にそったかかりつけ医での受診支援が行われている。通院にはホーム側又は家族対応が行われ、情報の共有が図られている。またホームの協力医による定期的な訪問診療も行われ適切な医療を受けられるよう支援されている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援できていると思う		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携は出来ている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意見を最も大切に考え、医療機関の意見を参考にホームで出来るだけの対応をしている	ホームでは重度化の対応に関わる指針(体調の重度化と看取りに際しての対応について、重度化の対応や看取りに対する職員の研修と体制)を作成して、既に2人の看取りが行われたことを伺った。	入居者やご家族と終末期に向けて、早い時点より話し合い意向を伺うとともに、看取りの段階に至った折には、入居者やご家族の気持ちの変化をキャッチして、入居者やご家族の安心と納得が得られるような対応へ期待する。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期ではないがホームの看護師の指導や研修会に参加して身につける努力をしている		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	社員の緊急連絡網の整備をし、年2回の避難訓練の実施や近隣の方々をお願いをしている	避難場所(日常の散歩道となっている)を設定しての避難訓練や通報訓練・消化訓練を年2回行っている。なお職員の緊急連絡網を整備して緊急時の対応に備えると共に、近隣の方々への呼び掛けも行われている。	夜間職員の手薄な時点での夜間想定をした災害対策の検討と実施が望まれる。なお、近隣住民の協力体制が得られるよう期待する。

外部評価結果(グループホームりんごの樹)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々のスタッフの対応としては大変難しい部分である 意識はしていても人格を損ねる言葉がつい出てしまうケースもありうる	入居者と職員は共に名前呼び合い、通い合った和やかな雰囲気が見られる。職員の言葉掛けや穏やかな態度により和気あいあいの会話が弾み、入居者同士穏やかに過ごされている。	人手不足や忙しい等の状況に流されることなく、穏やかな言葉掛けやゆったりとした態度での継続した支援に期待する。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	共同生活の為制限もあるが、そのような働きかけは出来ている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の為制限もあるが、そのような働きかけは出来ている		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来ている		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来ている	ホーム菜園で収穫された野菜を切ったり、もやしのひげ取りをして職員と食事の準備に参加されている。食事は長い食卓テーブルを囲み職員の優しい支援のもと、色とりどりの食材の旨味に舌鼓を打たれていた。和気あいあいの食後には入居者より十八番の「黒田節」が披露され、和やかに過ごされていた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	出来ている		

外部評価結果(グループホームりんごの樹)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来ている		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	認知症の方にとっては非常に大変な事であるなるべく声がけ等で対応してはいるが...	排泄チェック表を活用しながら排泄の自立に向けた支援が行われている。入居者の状態低下により、夜間みのオムツ対応になられた方も職員のオムツ排除に向けた対応により、自立に繋がったことを伺った。	今後も自立に向けた話し合いを重ねられ、気持ちよく排泄するための支援の継続に期待する。
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師の指導や研修会の参加で身につけた事を実践している		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	3名のスタッフで9名の皆さんの見守りをするにはお1人お1人の希望やタイミングに合わせる事は困難である	職員は、入居者の希望に沿うと共に、一人ひとりの体調の変化を確認して、午前2人・午後1人の入浴支援が行われている。精神的に不安定であったり、入浴を拒む入居者には無理強いせず、状況を見ながら心情を察した言葉掛けを行うなど、気持ちを大切に支援に努められている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来ていると思う		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の指導で出来ていると思う		

外部評価結果(グループホームりんごの樹)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ていると思う		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	スタッフの見守りにも限界があるが、係を決めて努力している	入居者の心身の状況を踏まえつつ、災害時へ考慮した避難場所への散歩や入居者全員での花見やぶどう狩りへ出かけられている。また外出困難な方には開放的な庭に備えられたベンチに腰掛け、庭先の菜園やりんご畑を眺め気分転換を図られている。なおスーパーへの買い物や美容院への外出支援もしている。ご家族とお墓参りにも出かけられる方もいる。	外出が困難な入居者であっても車椅子などを利用してできるだけ外出支援がおこなえるような配慮を望む。職員の手不足時にはボランティアさんよりの支援が得られるような呼び掛けに期待する。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居されてるほとんどの方が、自身で管理されることが難しい		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は家族の了解を得て支援出来ている 手紙のやり取りに対する支援を考える		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来ていると思う	明るく開放的な共用空間には沢山の花々が飾られ、花の香りや台所よりの食材の匂い、壁面に飾られた入居者による手づくりの品(カレンダー、花かご、沢山のピエロ人形、タオルハンガー等)が飾られ、安らげる家庭的な温かさへの配慮の中、入居者は炬燵を囲んで談笑しながらゆったりと過ごされている。	入居者の家での過ごし方や馴染みの品などの情報収集を行い、居心地よく過ごせる空間になるよう継続した支援に期待する。
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	出来ていると思う		

外部評価結果(グループホームりんごの樹)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来ていると思う	居室には入居者の馴染みの品々(衣装ケース、家族写真、位牌、飾り物等)が持ち込まれ安らぎの場所となっている。	今後更に入居者やご家族と話し合わせ、生活感のある物品の持込への配慮が望まれる。
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ていると思う		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有していると思うが、現場はなかなかその通りには進まない	地域密着型サービスの意義を踏まえた大枠の理念が掲げられると共に、更に具体化した理念を明示されている。ホーム事務室に掲示された理念を職員が出勤時に唱和、また毎月のミーティング時において話し合い、理念の共有を図りサービスに当たられている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の管理者が古くから地元に住んでおり隣組の関係で交流が来ている	地域の一員として町内会に加入しており、地域との連携を図られている。なお地域の行事(夏祭り、町内小学生による盆行事「あおやまさま」、文化祭等)や各種団体によるボランティアの方々の訪問による交流が図られている。時には近隣の方よりのお野菜などのおすそ分けを頂くこともあることを伺った。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の学生(中学・高校)の体験学習や学生ボランティアの受入に協力している		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議 = ホーム会議、として色々な取り組みや反省会 地域の方との意見交換など頑張っている	運営推進会議では議題(認知症ケアについて、介護と感染予防等)を設けて、参加者より要望を伺うとともに、専門性を有した方からの指導を得ながら勉強会を行うなど、双方向的な会議を持たれるよう努められている。	会議メンバー構成員には入居者やご家族も入っておりますが、現況では参加が見られない。今後入居者やご家族に呼び掛け、思いや要望の表出場面になるよう期待する。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者との連絡は大切にしているが、異動でせっかく慣れた方がいなくなるのは困る	ホーム運営者は、高齢化に伴い急増しつつある認知症ケアの必要性を認識されており、現況のホームを活用してのデイサービスの創設に向け、市担当者との取り組みのための話し合いが行われている。	地域密着型サービスとしてのグループホームへのニーズが多様化する中、現場や入居者の問題解決のためには、介護保険の保険者である市の理解と支援が必要である。運営推進会議や様々な機会を通じて、市の担当者の実情を知っていただき、情報を共有されることが望まれる。

外部評価結果(グループホームりんごの樹)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしない 但し、見守り者の状況によっては無断離設を想定して玄関施錠もありえる	ホーム利用に当たり契約書に身体拘束をしないケアについて明記されており、説明を受けている。なお職員は身体拘束により入居者が受ける身体的・精神的弊害について研修等で学び理解しており、拘束のないケアに取組まれている。	今後更に入居者一人ひとりの心身の状態を見極め、身体拘束を必要としない状態を作る方向を考慮されたケアの確立に期待する。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	注意を払い、防止に努めている		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	出来ていない		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に詳しく説明をしている 又、家族の署名も頂いている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部者へ表せる機会・・・？ 家族からの意見は反映している	入居者については日常の対話の中より、思いや要望の表出に努められると共に、ご家族が訪問される機会には入居者の状況や暮らしぶりを伝え、ご家族よりの意見や希望を伺い、職員全員で話し合い、運営に反映されている。気軽に意見表出が出来るよう意見箱も設置されている。	今後更に利用者・ご家族の運営会議出席やりんご便りを活用して、入居者の状態や暮らしぶりを伝え、ご家族の関心や意見を引き出す取り組みに期待する。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営推進会議＝ホーム会議、として色々な取り組みや反省会での意見を運営に生かしている	ホームミーティング時に職員の意見や要望を聞く機会を設け話し合い運営に反映されている。(有給休暇の消化の件・休憩時間の取得・ゴミ処理問題等)	今後更に職員の意見を反映し、ホームの質の向上に繋がる取り組みに期待する。

外部評価結果(グループホームりんごの樹)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>整備に努めたいが、現在の介護報酬では限界がある</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>整備に努めたいが、現在の介護報酬では限界がある</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>仕事を終えた後や休みの日に、機会を設けて自主的に参加して頂いている 出来れば仕事時間として勉強会等に参加させたい</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>家族や本人から十分にお話を伺って、その情報を共有しながら慎重に進めている</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居時に管理者とホーム長がスタッフの代表として時間をかけてお話をさせて頂く</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居時に管理者とホーム長がスタッフの代表として時間をかけてお話をさせて頂き、判断をしている</p>		

外部評価結果(グループホームりんごの樹)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームの理念を理解して頂いている		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームの理念を理解して頂いている		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	こちらから出向くことは難しい	入居者の友人や昔入居者にお世話になられた方(若いころお茶やお食事の接待を受けられた方)が訪問して下さり、交流が図られている。なお馴染みの美容院・スーパーへの買い物・近隣の花見場所等に出かけ、楽しむことが出来るよう支援されている。	今後も入居者をとりまく方々との関係が途切れることのないよう、入居者に代わって電話や手紙などにより継続できる支援に期待する。
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来ている		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	努めている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者を決めて定期的にカンファレンスを行いその人らしい暮らしを支えている	職員は入居者一人ひとりの生活暦を把握して、日々寄り添いのケアの中で得られた気付きをノートに書き留め、ここから得られた入居者の思い・意向・希望を基に職員間で話し合わせ、対応に活かされている。	今後更に気付きノートの活用により、よりきめ細かい対応に期待する。

外部評価結果(グループホームりんごの樹)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族の方々より情報を頂き、サービスの向上に努めている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録に残しスタッフがその情報を共有出来るようにしている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者を決めて定期的にカンファレンスを行いその人らしい暮らしを支えている	一人の入居者を3人の職員で見るという担当制により、入居者の状態や生活歴、入居者やご家族の意向を把握して全職員でカンファレンスを行い、入居者主体の具体的な介護計画が作成されている。	入居者の高齢化に伴い、機能低下が見られる中で、入居者一人ひとりの意向にそったきめ細かい対応を視点に置いた時に、何ら状態に変化が見られなくても3ヶ月に1回程度の見直しが望まれる。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に残しスタッフがその情報を共有出来るようにしている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	小規模だから出来るサービスだと思い、重要課題の一つだと捉えています		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			

外部評価結果(グループホームりんごの樹)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援できていると思う	入居者やご家族の希望にそったかかりつけ医での受診支援が行われている。通院にはホーム側又は家族対応が行われ、情報の共有が図られている。またホームの協力医による定期的な訪問診療も行われ適切な医療を受けられるよう支援されている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援できていると思う		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携は出来ている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意見を最も大切に考え、医療機関の意見を参考にホームで出来るだけの対応をしている	ホームでは重度化の対応に関わる指針(体調の重度化と看取りに際しての対応について、重度化の対応や看取りに対する職員の研修と体制)を作成して、既に2人の看取りが行われたことを伺った。	入居者やご家族と終末期に向けて、早い時点より話し合い意向を伺うとともに、看取りの段階に至った折には、入居者やご家族の気持ちの変化をキャッチして、入居者やご家族の安心と納得が得られるような対応へ期待する。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期ではないがホームの看護師の指導や研修会に参加して身につける努力をしている		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	社員の緊急連絡網の整備をし、年2回の避難訓練の実施や近隣の方々をお願いをしている	避難場所(日常の散歩道となっている)を設定しての避難訓練や通報訓練・消化訓練を年2回行っている。なお職員の緊急連絡網を整備して緊急時の対応に備えると共に、近隣の方々への呼び掛けも行われている。	夜間職員の手薄な時点での夜間想定をした災害対策の検討と実施が望まれる。なお、近隣住民の協力体制が得られるよう期待する。

外部評価結果(グループホームりんごの樹)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々のスタッフの対応としては大変難しい部分である 意識はしていても人格を損ねる言葉がつい出てしまうケースもありうる	入居者と職員は共に名前呼び合い、通い合った和やかな雰囲気が見られる。職員の言葉掛けや穏やかな態度により和気あいあいの会話が弾み、入居者同士穏やかに過ごされている。	人手不足や忙しい等の状況に流されることなく、穏やかな言葉掛けやゆったりとした態度での継続した支援に期待する。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	共同生活の為制限もあるが、そのような働きかけは出来ている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の為制限もあるが、そのような働きかけは出来ている		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来ている		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来ている	ホーム菜園で収穫された野菜を切ったり、もやしのひげ取りをして職員と食事の準備に参加されている。食事は長い食卓テーブルを囲み職員の優しい支援のもと、色とりどりの食材の旨味に舌鼓を打っていた。和気あいあいの食後には入居者より十八番の「黒田節」が披露され、和やかに過ごされていた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	出来ている		

外部評価結果(グループホームりんごの樹)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来ている		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	認知症の方にとっては非常に大変な事であるべく声がけ等で対応しているが...	排泄チェック表を活用しながら排泄の自立に向けた支援が行われている。入居者の状態低下により、夜間みのオムツ対応になられた方も職員のオムツ排除に向けた対応により、自立に繋がったことを伺った。	今後も自立に向けた話し合いを重ねられ、気持ちよく排泄するための支援の継続に期待する。
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師の指導や研修会の参加で身につけた事を実践している		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	3名のスタッフで9名の皆さんの見守りをするにはお1人お1人の希望やタイミングに合わせる事は困難である	職員は、入居者の希望に沿うと共に、一人ひとりの体調の変化を確認して、午前2人・午後1人の入浴支援が行われている。精神的に不安定であったり、入浴を拒む入居者には無理強いせず、状況を見ながら心情を察した言葉掛けを行うなど、気持ちを大切に支援に努められている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来ていると思う		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の指導で出来ていると思う		

外部評価結果(グループホームりんごの樹)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ていると思う		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	スタッフの見守りにも限界があるが、係を決めて努力している	入居者の心身の状況を踏まえつつ、災害時へ考慮した避難場所への散歩や入居者全員での花見やぶどう狩りへ出かけられている。また外出困難な方には開放的な庭に備えられたベンチに腰掛け、庭先の菜園やりんご畑を眺め気分転換を図られている。なおスーパーへの買い物や美容院への外出支援もしている。ご家族とお墓参りにも出かけられる方もいる。	外出が困難な入居者であっても車椅子などを利用してできるだけ外出支援がおこなえるような配慮を望む。職員の手不足時にはボランティアさんよりの支援が得られるような呼び掛けに期待する。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居されてるほとんどの方が、自身で管理されるのが難しい		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は家族の了解を得て支援出来ている 手紙のやり取りに対する支援を考える		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来ていると思う	明るく開放的な共用空間には沢山の花々が飾られ、花の香りや台所よりの食材の匂い、壁面に飾られた入居者による手づくりの品(カレンダー、花かご、沢山のピエロ人形、タオルハンガー等)が飾られ、安らげる家庭的な温かさへの配慮の中、入居者は炬燵を囲んで談笑しながらゆったりと過ごされている。	入居者の家での過ごし方や馴染みの品などの情報収集を行い、居心地よく過ごせる空間になるよう継続した支援に期待する。
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	出来ていると思う		

外部評価結果(グループホームりんごの樹)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来ていると思う	居室には入居者の馴染みの品々(衣装ケース、家族写真、位牌、飾り物等)が持ち込まれ安らぎの場所となっている。	今後更に入居者やご家族と話し合わせ、生活感のある物品の持込への配慮が望まれる。
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ていると思う		